

研究ノート

観光空間としての中心市街地のあり方に関する基礎的研究

—若年層の和歌山市内日帰り旅行モニター調査の結果を通して—

**Study on revitalising the City Centre as a tourist space
– Through the survey of youth day trip of Wakayama City**

堀田 祐三子、永瀬 節治、山田 良治

Yumiko Horita, Setsuji Nagase, Yoshiharu Yamada

和歌山大学観光学部

キーワード：和歌山市、都市観光、若年層ニーズ、中心市街地、空間形成

Key Words：Wakayama, Tourist city, Youth needs, City Centre, Urban Landscape

Abstract：

This paper discusses ways of revitalising a city centre, analysing the survey result of youth needs for tourism from the perspective of space shaping. Questionnaire and interview surveys were conducted with a purpose to evaluate Wakayama as a tourism space. The analysis reveals some critical points to consider in re-designing the city centre in Wakayama - to make the space more attractive and recognisable as a tourism destination by both local residents and visitors with a clear reference to the 'tourist gaze.'

I. はじめに

1. 研究の背景と目的

和歌山市の中心部は衰退が著しく進むなか、中心市街地活性化計画等により、再生の試みが続いている。にもかかわらず、人口や既存店舗の流出に歯止めがかかるとなく、中心部の賑わいを取り戻せているとはいえない状況にある。また、和歌山城を核とする和歌山市中心部は、立地としては、和歌山市内に点在する観光資源への拠点もしくは中継地として位置づけられるが、現状ではその機能すら十分果たしていないうえ、そうした機能を活かした集客・観光空間としての可能性も発揮できていない。

本稿は、和歌山市観光課からの受託研究として、和歌山市の観光資源に対する若年層の観光ニーズを把握するために実施した調査結果をもとにして、その観光ニーズを中心部の賑わいや活性化につなげるための諸方策について、とくに空間形成（市街地再整備）という観点から検討を行うことを目的としている。狙いは、観光客を大量に集客することにあるのではなく、外部からどう見えているかを意識化することで、その地の特性を活かした魅力的な空間形成を促進し、生活者、来訪者がともに楽しめる場づくりを行うことにある。

2. 調査方法

若年層（18～25才）が、和歌山市を観光もしくはレジャーの空間としてどのように捉えているのか、また実際に訪れた際にどのような観光行動をとり、さらにはどのような印象や評価をするかを把握するため、以下二つの調査を行った。

① 観光目的地としての和歌山市に対する意識調査

和歌山市への来訪経験や和歌山市の観光資源に対する認知度等を調査するため、アンケート調査を実施した。和歌山市が株式会社リクルートじゃらんリサーチセンターに委託して実施したアンケート調査の質問票の質問項目を利用し、加えて独自の質問を加える形で質問票を作成した¹。調査内容の概要は表1の通りである。

表1 意識調査の概要

項目	内容
実施日時	2013年1月11日～1月31日
調査対象	立命館大学の学生およびモニター調査の被験者
実施方法	立命館大学の学生 ² を対象に、直接配布・回収した。モニター調査の被験者には、郵送もしくはメールで質問票を送り、モニター調査当日に直接回収した。
配布対象者数	約350名 ³
回収数	185 ⁴

② 日帰り旅行モニター調査

和歌山市における観光需要の喚起と新たな観光資源の発掘を目的として、若年層の日帰り旅行ニーズおよびその満足度についてモニター調査を行った。モニター調査を行う前には、上記①の意識調査と訪問予定の場所についてのアンケート調査（事前調査）を実施し、モニター調査終了直後には、訪問場所や体験談、感想等について対面聞き取り方式で調査を行った。モニター調査の詳細および実施内容は以下の通りである。

表2 日帰り旅行モニター調査被験者の募集方法

募集対象	・和歌山市在住ではない18～25才までの学生。実家が和歌山市にあるなど、幼少期に長期間和歌山市に在住経験がある者を除く。 ・留学生については、現在の居住地が和歌山市内でない者とする。年齢および国籍、日本滞在年数は問わない。
募集方法	・近畿圏の大学の教員および学生のネットワークを通じて募集

表3 日帰り旅行モニター調査の要件

事前準備	・被験者は、来訪前に意識調査アンケートに回答する。 ・被験者は、事前にインターネットや手持ちのガイドブック等をつかって日帰り旅行についての簡単なプランを検討する（事前調査）。
調査当日	・被験者は友人等2～3人1組もしくは1人で、和歌山市内日帰り旅行を行う。 ・被験者は、自由に市内を観光・散策する。当日の行動は事前に作成したプランに拘束されない。 ・散策の手がかりとして、既存の和歌山市観光関連マップおよび実験的に作成したまちなかマップを被験者に配布した。 ・集合場所（南海和歌山市駅）に到着後、モニター調査の前半（午前）には和歌山城および周辺散策を必ず行うものとした。後半（午後）には複数の観光エリア（まちなか、和歌浦、加太、貴志川、マリーナ等）を最低1つ選択し、選択したエリアを中心に自由散策を行う。 モニター調査中、GPSとデジタルカメラを用い、写真と軌跡の記録を採る。写真撮影の対象および枚数は限定しない。データはモニター調査終了後に回収した ⁵ 。 ・モニター調査の終了時に被験者は聞きとり式の事後アンケートに回答する。

表4 日帰り旅行モニター調査の概要

項目	内容
実施日時	2013年1月31日（木）～2月3日（日）
調査実施日の状況 ⁶	1月31日（木） （天気：晴、最低気温：7時1.9℃、最高気温：15時12.5℃） 2月1日（金） （天気：曇、最低気温：6時3.0℃、最高気温：15時15.3℃） 2日（土） （天気：晴、最低気温：23時11.6℃、最高気温：13時18.2℃） 3日（日） （天気：晴、最低気温：7時7.6℃、最高気温：14時11.6℃）
被験者数	31名（内訳：男性10名 女性21名）（留学生9名）
回答率	事前調査25件（80.6%） 事後調査31件（100.0%）

3. 回答者の属性

意識調査の回答者全体（以下回答者）の属性とモニター調査被験者（以下被験者）の属性について概説する。意識調査の回答者および被験者の人数は、それぞれ185名と31名。男女別および年齢層は表5、表6の通りである。

現在の居住地は当然のことながら、回答者・被験者ともに京都府内がもっとも多い。他方出身地については、回答者では近畿が半数を占める。被験者の出身地は、留学生を含め、近畿圏以外が19名と約6割を占めている。

表5 男女別被験者・回答者数

	被験者		回答者全体	
	度数	%	度数	%
男	10	32.3%	51	27.6%
女	21	67.7%	134	72.4%
合計	31	100.0%	185	100.0%

表6 年齢層別被験者・回答者数

	被験者		回答者全体	
	度数	%	度数	%
10代	1	3.2%	1	0.5%
20～24才	29	93.5%	182	98.4%
25才～	1	3.2%	2	1.1%
合計	31	100.0%	185	100.0%

表7 被験者および回答者の現在の居住地

	被験者		回答者全体	
	度数	%	度数	%
京都府	18	58.1%	132	71.4%
大阪府	9	29.0%	31	16.8%
奈良県	0	0.0%	7	3.8%
滋賀県	1	3.2%	6	3.2%
兵庫県	2	6.5%	6	3.2%
その他	1	3.2%	3	1.6%
合計	31	100.0%	185	100%

表8 被験者および回答者の出身地

	被験者		回答者全体		被験者出身地詳細
	度数	%	度数	%	
北海道・東北	2	6.5%	5	2.7%	北海道、宮城
関東	2	6.5%	18	9.8%	千葉、栃木
信越・北陸	0	0.0%	9	4.9%	
東海	4	12.9%	20	10.8%	愛知、岐阜
近畿	12	38.7%	91	49.2%	大阪、奈良、兵庫
中国	0	0.0%	10	5.4%	
四国	0	0.0%	11	5.9%	
九州・沖縄	2	6.5%	10	5.4%	福岡、沖縄
海外	9	29.0%	11	5.9%	中国、韓国、タイ、ネパール、ドイツ、ペナン、フィリピン
無回答	0	0.0%	2	1.1%	
合計	31	100.0%	185	100.0%	

II. 意識調査にみる、和歌山市の観光目的地としてのイメージ

まずは、意識調査の結果から、若年層が観光目的地として、和歌山市にどのようなイメージを抱いているかについて把握する。ここでは、和歌山市への来訪経験以外の項目については、

来訪経験の有無・無し別に検討した⁷。

1. 和歌山市への来訪経験と和歌山市の認知度

和歌山市への旅行での来訪経験（家族旅行や個人旅行での来訪経験）⁸は、回答者全体では104名（56.5%）が、被験者では21名（67.7%）が0回であった（表9）。回答者全体のうち36名（36.7%）が、被験者では12名（57.1%）が「和歌山市には行ったことはないが、和歌山県その他エリアには行ったことがある」と、回答者56名（57.1%）、被験者8名（38.1%）は「和歌山市を知らない」と回答している（表10）。また、和歌山市に旅行で行ってみたいかという設問に対して、「観光地というイメージがないから」や「行きたいと思う観光スポットがないから」という回答が多い⁹。和歌山市が観光目的地として認識されていないことを如実に表している。ちなみに被験者で「和歌山市を知らない」と回答した8名のうち、5名は留学生であるが、3名は出身地が近畿以外の日本人であった。

表9 和歌山市への来訪回数

	被験者		回答者全体	
	度数	%	度数	%
0回	21	67.7	104	56.5
1回	5	16.1	35	19.0
2~3回	1	3.2	33	17.9
4~5回	1	3.2	7	3.8
6回以上	3	9.7	5	2.7
合計	31	100.0	184	100.0

表10 和歌山市への来訪回数がない人の和歌山県内（和歌山市以外）への来訪

	被験者(N=21)		回答者全体(N=98)	
	度数	%	度数	%
和歌山市には行ったことがないが、和歌山県他のエリアに行ったことがある。	12	57.1%	36	36.7%
修学旅行や林間学校で和歌山市に行ったことがある。	1	4.8%	6	6.1%
和歌山市を知らない。	8	38.1%	56	57.1%
合計	21	100.0%	98	100.0%

2. 和歌山市のイメージ

和歌山市の観光地としてのイメージについて、回答者全体で「あてはまる」と回答した割合がもっとも多いものは「豊かな自然に恵まれた地域」（81.7%）であり、次いで「温泉を楽しめる地域」（67.2%）、「高齢者が楽しめる地域」（57.2%）となった。被験者と回答者全体の回答に大差はないが、被験者グループに特徴的であったのが、「人びとが親かな地域」というイメージに「あてはまる」と回答した者が多く、回答者全体グループのランキング（12位）よりも上位（5位）となった。

また、来訪経験の有無別に和歌山市のイメージをみると、来訪経験の無いグループと比較して、来訪経験の有るグループでは「家族連れで楽しめる地域」というイメージが「あては

まる」と回答した割合が75.0%と高く、「豊かな自然に恵まれた地域」（87.5%）に次ぐ高さとなった（表11）。

いずれの結果をみても、和歌山市のイメージは「若者が楽しめる」というイメージは高くはなく、年齢の高い層が、子ども連れなど家族で楽しむ地域としてイメージされていることがうかがえる。

表11 来訪経験の有無別 和歌山市のイメージ

	来訪経験あり(N=104)				来訪経験なし(N=80)			
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
あてはまる	87	83.7%	68	85.0%	75	93.8%	62	77.5%
あてはまる程度	12	11.5%	10	12.5%	4	5.0%	12	15.0%
あてはまらない	3	2.8%	2	2.5%	1	1.2%	6	7.5%
あてはまらない程度	1	1.0%	1	1.2%	0	0.0%	1	1.2%
あてはまらない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	104	100.0%	80	100.0%	80	100.0%	80	100.0%

3. 観光資源に対する認知と興味

来訪経験の有無別に、観光資源がどれほど認知されているかについてみると、経験有りのグループでは、温泉（39.2%）、海水浴（33.3%）、和歌山マリーナシティ（29.1%）、和歌山ラーメン（26.3%）の順で「よく知っている」の割合が高く、経験無しグループでは、温泉（12.6%）、和歌山ラーメン（15.5%）、海水浴（12.6%）の順であり、上位項目はほぼ同様であった。

逆に、あまり知られていないのが、風土記の丘と淡島神社であり、両グループとも「知らない」の割合が8割を越えている。その他、和歌山ラーメンを除いて、食に関する項目に対して「知らない」と回答した割合が高くなっている。

端的に言えば、観光資源の認知は、来訪経験の有無にかかわらず、温泉、海、和歌山ラーメンが高く、寺社や名所・旧跡やラーメンをのぞく食については低い。また、来訪経験有りのグループのみ和歌山マリーナシティの認知が高いということである。

観光資源に対する興味は、来訪経験の有無とともに、温泉、花火、和歌山ラーメンが高く、認知されている割合が低いわりに興味があると回答した割合が高かったのが、マリンスポーツであり、来訪経験がないグループについては和歌山マリーナシティも高い割合となった。和歌山ラーメンを除く食も認知されている割合は低いが、興味があると回答した割合は高い。

また、相対的に、名所・旧跡を見て回るよりも、温泉や花火、テーマパーク、マリンスポーツといった何らかのアクティビティを伴う項目に対する興味・関心が高いことが特徴的である。

表 12 来訪経験の有無別 観光資源の認知度

	来訪経験有(H=00)				来訪経験無(H=04)			
	よく知っている	知っている程度	聞いたことがある	知らない	よく知っている	知っている程度	聞いたことがある	知らない
和歌山城	83.3%	21.0%	39.2%	20.8%	2.9%	11.7%	45.0%	39.9%
和歌山マリナシティ	38.0%	25.3%	19.0%	27.8%	8.7%	11.7%	33.0%	46.6%
和歌山の浦	6.3%	19.0%	30.4%	44.3%	1.0%	6.7%	31.1%	59.2%
玄ヶ瀬	6.3%	7.0%	13.9%	72.2%	0.0%	1.0%	10.7%	87.4%
紀三井寺	6.3%	11.4%	19.0%	63.3%	4.9%	6.7%	19.0%	75.7%
紀伊東照宮	5.1%	11.4%	21.5%	62.0%	1.0%	6.7%	20.4%	69.9%
加太淡島神社	5.1%	5.1%	9.5%	80.9%	1.0%	2.0%	6.9%	90.2%
紀伊藤原氏の丘	1.3%	1.3%	3.2%	88.2%	0.0%	0.0%	7.8%	88.3%
和歌山神社	11.7%	7.0%	18.5%	58.2%	4.9%	5.8%	13.6%	75.7%
海水浴	22.5%	21.5%	28.2%	16.7%	13.0%	21.4%	35.9%	27.2%
マリンスポーツ	11.4%	20.3%	30.4%	38.0%	6.7%	17.5%	27.2%	46.6%
海釣り	10.1%	11.4%	33.0%	46.0%	3.8%	17.5%	23.2%	51.5%
温泉	32.2%	24.1%	19.0%	17.7%	17.5%	34.3%	28.2%	20.1%
花火	11.4%	16.5%	19.0%	53.2%	2.9%	8.7%	31.1%	56.3%
和歌山ラーメン	28.3%	27.5%	22.5%	23.6%	15.0%	23.0%	29.1%	22.3%
加太房ダイ	2.5%	3.8%	13.9%	79.7%	0.0%	4.9%	16.6%	84.3%
アニアカエビ	1.3%	4.3%	3.9%	83.6%	0.0%	2.9%	12.7%	86.3%
わからしらす	4.3%	11.4%	13.9%	69.4%	3.9%	5.8%	17.5%	72.0%
和歌山パンチ	2.5%	1.3%	5.1%	81.1%	0.0%	0.0%	7.8%	82.2%
和歌山ジンジャーエール	2.5%	0.0%	2.9%	88.9%	0.0%	1.0%	3.9%	95.1%

表 13 来訪経験の有無別 観光資源への興味度

	来訪経験有(H=00)				来訪経験無(H=04)			
	興味がある	やや興味がある	あまり興味はない	興味はない	興味がある	やや興味がある	あまり興味はない	興味はない
和歌山城	30.0%	34.0%	16.7%	17.9%	29.7%	52.7%	17.9%	13.2%
和歌山マリナシティ	40.0%	48.0%	6.3%	6.7%	40.7%	48.2%	13.2%	14.2%
和歌山の浦	21.0%	33.3%	20.2%	16.7%	24.4%	48.8%	26.0%	25.6%
玄ヶ瀬	26.0%	35.0%	21.0%	17.9%	23.5%	36.7%	24.4%	25.3%
紀三井寺	29.5%	24.4%	25.0%	20.9%	32.1%	42.8%	24.4%	33.3%
紀伊東照宮	26.9%	34.4%	26.9%	21.8%	23.4%	46.8%	20.9%	35.1%
紀伊藤原氏の丘	21.0%	21.8%	33.3%	23.1%	21.3%	38.7%	40.0%	39.2%
和歌山神社	14.1%	16.7%	35.9%	33.3%	13.4%	37.2%	49.3%	55.2%
海水浴	26.0%	24.7%	24.7%	24.7%	24.6%	40.0%	34.0%	30.7%
マリンスポーツ	30.0%	38.4%	19.4%	14.3%	38.4%	38.4%	23.3%	20.0%
海釣り	36.0%	32.9%	16.5%	12.7%	48.1%	34.1%	20.7%	25.6%
温泉	20.2%	25.8%	17.9%	28.2%	20.3%	37.8%	41.9%	40.0%
花火	31.5%	30.8%	2.6%	3.1%	34.0%	29.0%	11.0%	4.0%
和歌山ラーメン	35.1%	28.2%	9.0%	7.7%	50.0%	33.0%	17.0%	9.0%
加太房ダイ	32.0%	33.3%	11.0%	2.5%	51.0%	40.0%	8.3%	9.3%
アニアカエビ	24.4%	28.2%	23.1%	24.4%	29.3%	35.7%	34.5%	23.8%
わからしらす	29.5%	29.9%	17.9%	25.0%	38.4%	27.9%	39.7%	20.9%
和歌山パンチ	24.4%	35.9%	14.1%	25.6%	31.8%	36.5%	31.0%	21.2%
和歌山ジンジャーエール	33.3%	38.5%	15.4%	19.2%	41.0%	32.0%	25.6%	20.9%

4. 小括

若年層にとって、和歌山市は概して観光地というイメージが貧弱であり、自ら楽しめる観光地として捉えられていない傾向が強い。

和歌山市のイメージは、来訪経験の有無にかかわらず、温泉や海水浴など自然の豊かさに関わるものと捉えられる傾向が強いと言える。観光資源の認知や興味の高項目も、温泉や海水浴、マリンスポーツ、花火、マリナシティと、自然や海（海岸）との関わりが強いものであった。

また、来訪経験の有りのグループでは、和歌山市は、高齢者や家族連れが楽しめる地としてのイメージが強く、若年層にとって現状は必ずしも楽しめる観光地（レジャーの地）というイメージをもたれていない。幼少期に家族で訪れた思い出として、温泉や海水浴というイメージが継承されてはいるが、その後自律的に移動ができるようになってからは、観光地（レジャーの地）として積極的に和歌山市を選択することは少ない（もしくはない）という状況が推察できる。

Ⅲ. 被験者の日帰り旅行行動と観光空間としての中心部

本節では、被験者の和歌山市内での日帰り旅行モニター調査での行動およびその感想をもとに、和歌山市内の観光空間、とくに和歌山城を核とした中心市街地のあり方について検討する。日帰り旅行行動の分析は、外国人からみた和歌山市内の観光空間の評価および日本人のそれとの差異を把握するため、必要に応じて日本人学生／留学生別に行っている¹⁰。

1. 駅から和歌山城までの行動

被験者は、南海和歌山市駅に集合し、その後徒歩で和歌山城まで移動することが求められる。和歌山市駅から和歌山城までは約 900 m、徒歩で 12～15 分の距離にあるが、被験者 31 名中 20 名（64.6%）はその距離感を「遠い」とは感じていない。

和歌山市駅から和歌山城までの間でもっとも印象に残ったことを尋ねたところ、肯定的評価（ポジティブ評価）と否定的評価（ネガティブ評価）の両方の意見が出された。肯定的評価の点としては、電柱の地中化、和歌山城が見えるポイントがあること、交通量の少なさ、静かさ（混雑のなさ）であり、否定的評価については、人や開店している店舗の少なさ、和歌山らしさのなさなどがあげられた。概して留学生からの意見に肯定的評価が多くみられた。

表 14 和歌山市駅から和歌山城までの距離感

	度数	%
かなり遠い	2	6.5%
少し遠い	9	29.0%
ほどよい	18	58.1%
近すぎる	2	6.5%
合計	31	100.0%

2. 観光施設としての和歌山城に対する評価と印象

和歌山城の散策については、城の周りをぐるっと一巡した 23 人（74.2%）、天守閣に上った 23 人（74.2%）がともにもっとも多くなった（表 15）。天守閣へ上ることは必須条件としていなかったが、半数以上の被験者が入場料を払って上っている。留学生／日本人学生別にみても、散策方法にそれほど大きな差はみられないが、御橋廊下や動物園への立ち寄り日本人学生の散策に若干多く見られる。

被験者の和歌山城という観光施設への満足度は、概して高い。特に、天守閣や庭園については評価が高い。城だけでなく、動物園や広場など複合的に楽しめる要素があることについても一定評価がなされている。空間形成という点で着目すべきは、城周辺の緑の評価が高いことである。これが、観光客が抱く、和歌山市の自然や緑のイメージに結びついているものと推察できる。他方で、土産物屋やガイドの不在など観光資源を積極的に「魅せる」ための仕掛けやサービスが不十分であることに不満の声がみられる。

表 15 留学生／日本人学生別にみる、どのように和歌山城を歩いたか（複数回答）

	留学生	日本人	合計
城の周りをぐるっと一巡した	7	16	23
線を楽しんだ	6	10	16
歴史展示室にいった	6	8	14
土産品センター(案内所)に立ち寄った	5	6	11
二の丸公園でなごんだ	3	7	10
御櫓廊下をわたった	2	10	12
天守閣に上った	6	17	23
紅葉溪庭園にいった	2	5	7
門をめぐる	1	5	6
茶室に立ち寄った	1	0	1
動物園にいった	3	9	12
護国神社にいった	1	0	1
その他	0	0	0

(留学生 N=9、日本人学生 N=22、N=31)

3. 和歌山城周辺での行動

和歌山市駅から和歌山城までの移動以外で、和歌山城周辺をまち歩きしたかを尋ねたところ、したと回答した人は 24 人 (77.4%) であった。留学生／日本人学生別に見ると、日本人学生のほうがまちあるきをしたと回答している (表 16)。まちあるきをした人は、ぶらぶら街並みを眺めながら歩いたり (18 人 /24 人中)、店舗に立ち寄りながら歩き (11 人 /24 人中)、10 人がまちあるきとして十分楽しめたと回答した (表 17)。他方、楽しめなかったと回答した人も 7 人いた。まちあるきの際に立ち寄った場所では、ぶらぶら丁がもっと多かった。カフェ／レストランやラーメン (ラーメン店) という回答もあり、食事等で立ち寄ったことが伺える。

今回の調査では、和歌山城の訪問が必須になっていたため、まちなかを目的地にしていなかった人も、少なくともまちなかを経由せねばならなかったが、日本人被験者については素通りされた割合は低かった。来訪者の多く、とくに個人やグループ旅行者は、市街地中心部に食事や移動手段という機能を求めて立ち寄りやすさ、観光目的地としてのイメージ形成において、中心部の果たす役割は大きい。

また、まちあるきを楽しめたかどうかの評価別に、まちあるきの感想をみると、まちあるきをして、それを十分楽しめたと回答した人の評価には、事前のイメージ (おもしろいものはないだろうという予測) と、カフェや雑貨屋など楽しめるものがあるという実際とのギャップや、被験者の日常空間とは違っているということをおもしろがる傾向がみられた (表 18)。まちあるきを楽しめたのは、「街並みの雰囲気が好き」だったからという意見があるが、これはまとまりのない雑然とした雰囲気を指している¹¹⁾。自由記述の内容から判断すると、楽しめたと評価した人は、必ずしもまちあるき=まちという空間を歩いて楽しむということを楽しめたという評価にはなっていない。また、あまり楽しめなかったという評価では、店の少なさや何もないということ、和歌山らしさの欠如など厳しい意見が寄せられた。

表 16 留学生／日本人学生別にみる、和歌山城周辺でまち歩きをしたか

	留学生	日本人	合計
した	4	20	24
しなかった	5	2	7
合計	9	22	31

表 17 留学生／日本人学生別にみる、歩いて楽しめたか (N=23)

	留学生	日本人	合計
まち歩きとして十分楽しめた	1	9	10
まち歩きとしてまあ楽しめた	0	6	6
まち歩きとしてはあまり楽しめなかった	2	5	7
まちあるきとしては楽しめなかった	0	0	0
合計	3	20	23

表 18 まちあるきの評価別まちあるきの感想 (自由記述)

<input checked="" type="radio"/> 十分楽しめた人の意見
普段目にしないものがたくさんあったから。カフェやレストランの外装がよい。大阪だとビルの中にある。
ただ、ぶらぶらと商店街を歩いたりお店を見ているだけでも、時間があっという間にすぎた。ただ、これはそれでも楽しめる同行者だからかも。観光としての街歩きだとしたら、もう少しお目当てがない足を運びづらいかも。観光だと何かを目指して行くので、何かがない。もっとあると、観光になるかもしれない。
町並みがすごく好きな雰囲気であった。また、同行者が同じようにその雰囲気を楽しんでいる人だったから。普段と違っているところが上がった。
踏まれたところも見られたが、そこもまたおもしろかった。商店街の道は広く歩きやすかった。
カフェとか雑貨屋さんがあったよりたくさんあったから。和歌山ののんびりゆったりした雰囲気と合っていた。
カフェがたくさんあることが意外だなと感じたので。
事前に調べて置いた場所を回ることであったから、動物園もあって、びっくりした。楽しんでもっとよくなると思う。500円くらいまでなら入ってもよい。観光にいいと思う。
楽しめたのは今まで見ていなかったものがみえたから。(F)
景色がよかったから。道がわかりやすかったため迷わずに到着できたから。
スポットがたくさんあって、目的地へ目的地が近く歩いていて暇ななかった。
<input type="radio"/> まあ楽しめた人の意見
散策としては楽しかったが、見どころある場所が点在している分、どこに行くか迷った。迷いながらぶらぶらしていると立ち寄れるお店 (和歌山らしいお店も) が少ないと思った。
京都とはまた違った雰囲気よかった。建物の高さがバラバラ、全体的な雰囲気も。道も斜めがある。案内が少ない。
友人たちと楽しく話しながら歩けたから。それがなかったら少しきびしいかもしれない。
観光しながら友人と話す時間ができ、いつもと異なる交流を楽しめた。
城の景色がよかった。夜の目的地まで近かった。
和歌山城周辺は非常にのどかであり、都会とはまた違った雰囲気を味わえたから。道に木が多い。スーパー、コンビニが少ない。
<input type="radio"/> あまり楽しめなかった人の意見
そういう観光の店が少ないから。
段差があった。(人が少なく、土地が広く、利用されていない建物が多い)
市街地を歩いたので、史跡等も見つからなかった。
城から JR 和歌山駅までとくに何もなかった。マリンパークに行くために歩いた。けやき大通りから駅まで、歩きやすかった。
街が非常に静か。また日曜日であるせいかわかつかの店がしまっていた。和歌山ラーメンの店がしまっていた。定休日が地図に書いてあってもあまり見ない。(F)
何もない。お土産などの商店街もない。(F)

(F) は留学生の意見

4. 交通 (移動) 機能に対する不満

本調査のなかで被験者ももっとも強調していた点、交通 (移動) に対する不満であった。旅の途中で困ったこと、不満だと感じたこといずれの設問に対しても、公共交通に対する不満が多くあげられた。旅の途中で困ったことがあったと回答した人は 18 人であり、その大半は移動 / 公共交通に関するもの (バスの乗り換えや、本数の少なさ、待ち時間の多さなど) であった (表 19)。実際に、バスを降り損ねた被験者が、その後目的地にたどり着くために結局徒歩という手段を選択するしかないという事態に陥っている。日本語が理解できる日本人学生や留学生でさえ、市内の移動に困る状況であるということは、日本語に不如意な外国人観光客であれば、さらに市内の移動は困難である。

さらに、後に詳述するが、旅のなかでもっとも印象的だった

ことに対する回答のなかにも、公共交通の不便さやわかりにくさに対する不満が多くみられた。今回の調査結果では、こうした不満が直接旅全体の満足度や再訪の意向を減じる結果につながってはいないが、間接的に観光目的地としてのイメージや再訪意向を損ねる影響を孕んでいることは否めない。

表 19 旅の途中で困ったこと(交通 / 移動に関する言及のみ)

○ バスについて
バス停を探すこと。ご飯を食べるところがちよっと少ない。(F)
バス停が分かりにくかった。(F)
バスの本数が平日であるにもかかわらず少なかったです。市駅～和歌タクシー利用
バスの本数が少なかったために、時間にしぼりがあったような気がします。
バスの本数が少ない。バスの料金が高い気がした。まちなか観光案内所は何をするのか?
南海和歌山駅からJRへのバスの本数が少なかったため、少し困った。
バス料金が非常に高く、金がなくなりそうになった。京都だったらどこ行っても220円ですけど…(F)
バスの本数が少ない。整理券が出たり出なかったりする。案内所に人がいない。停留所がややこしい。携帯が圏外になってしまう。黒江ではタクシーやバスがなく歩きでマリナーシティまで行くことにした。(F)
バス本数が少ないため、マリナーシティに行くのにちよっと時間がかかってしまった。待つ時間40分と長かった。(F)
バス等をうまく利用することができなかったこと。行く方向がわからない、本数少ない、時間かかる。
和歌山城からマリナーシティまでの無料のシャトルバスがあると聞いたので、あちこち探し回ったけど、結局なかった。バスの運賃が高い、本数が少ない。先生から聞いた。1日になくなったみたい。案内所も迷った。(F)
○ 電車について
JR～南海への乗り換えの不便さ。貴志川線への乗車券の買い方。案内とか少ない一連つた
和歌山市と和歌山駅の乗り換えとか切符の買い方などわかりにくかった。
○ 道案内について
観光スポットが探しにくかった。道しるべがあったら助かる。
和歌山城へ行くとき駅からの道しるべがあれば行きやすい、バスは普通だった。(F)
井出商店に行くまで少し迷った。交番で聞いたが、その人も迷った。
外国人向けの案内表示があまりない(道・・・)(F)
○ 交通全般について
交通機関が少なく移動しにくかった。
交通
交通不便。待つ時間長い。(F)

(F)は留学生の意見

5. 訪問先の選択

午後主に訪れたエリアについて、もっとも多くの被験者が選択したのがマリナーエリアであった(表20)。まちなかのみ訪れた被験者は5名。まちなか+加太と回答した被験者が2名、まちなか+マリナーエリアが2名であった。ちなみに、和歌山市への来訪経験があり、マリナーシティを経験したことがある人は、今回は誰もマリナーエリアを選択していない。また、今回の調査では、留学生の多くがマリナーエリアを選択している。

自由記述のデータは紙幅に限りがあるため割愛するが、各エリアを訪れた評価や感想は概して高い。本稿の分析に関わって、示しておくべきエリアの評価・感想の特徴は以下の通りである。

まちなかエリアについては、多くの訪問地が列挙された。とくに、和歌山城に対する評価は具体的でかつ高評価となっている。またぶらくり丁に対する意見も多く挙げられたが、中心部の人の少なさや活気のない様子を、ある種面白いと感じる意見と、魅力のなさとして感じる意見に二分された。まちなかエリアは、和歌浦や加太、マリナーエリアへの中継点としての機能を有しており、また被験者の和歌山城に対する高評価を鑑みると、城を核としたまちなかエリアの、観光地としてのあり方や整備(見せ方・楽しませ方)を十分検討する必要があるといえよう。

和歌浦エリアおよびマリナーエリアでは、海・海岸を嗜好する傾向がみられた。実際に、事後評価の聞き取り調査からも、海や海岸で過ごしたことに対する評価(満足)の声が聞かれた。

表 20 留学生 / 日本人学生別にみる、実際に訪れたエリア(N=31)(複数回答)

	留学生	日本人	合計	合計(%)
まちなかエリア	1	8	9	29.0%
和歌浦エリア	2	5	7	22.6%
加太エリア	0	2	2	6.5%
貴志川エリア	0	6	6	19.4%
マリナーエリア	7	4	11	35.5%
その他	0	0	0	0.0%
合計	10	25	35	112.9%

6. 旅の評価

今回の旅のなかでもっとも印象的だったことについて、自由記述意見に共通する内容や文言をもとにして10のカテゴリー(①歩くことの楽しみ、②サイクリングの楽しみ、③公共交通機関の不便さ、④人とのふれあい、⑤和歌山城の印象と歴史的資源に対する興味、⑥黒潮市場・マリナーシティに対する印象、⑦貴志川線に対する印象、⑧土産物に対する印象、⑨和歌山市全体に対する印象、⑩その他)に分類した(表21)。もっとも多く見られた意見は、公共交通機関の不便さやわかりにくさに対するものであった。他方、歩くことやサイクリングに対する意見が多く出されたことは特徴的であった。不便さを解消するひとつの策としての、サイクリングの可能性を示すものであると同時に、サイクリングをすることを目的として来訪した被験者もいることから、短時間のアトラクションとしての可能性をも有していると言えよう。

また、和歌山城についての言及も多く見られた。これは和歌山城まで歩くことを必須としたことから、経験者が多いことも影響している。この点を考慮して意見をみても、和歌山城の歴史やみどころの多さについてのポジティブ評価は、和歌山市の観光イメージを形成するうえでも、今後さらに配慮を要する部分であると言えよう。

満足したと感じたことについては、食の魅力、和歌山城、自然景観に対する意見が多くみられた。また、のんびりと目的地を定めずに旅をしたことに対しても比較的好意的な意見が寄せられた。そうした旅のスタイルは、和歌山の自然や混雑していないまちの雰囲気ともマッチしている。さらに、人とのふれあいや人の優しさに触れたことについての言及が、満足したことおよびもっとも印象に残ったこととして複数あった。

逆に、不満だったことについては、移動 / 公共交通についての不満が多く挙げられた。これ以外にも、まちの活気のなさや観光地としての魅力のなさについての意見が目立った。今後、観光振興を図っていく上で、観光客にとっても魅力があると感じられる資源配置、それをつなぐ線(移動)と面(空間)のあり方を検討することが極めて重要である。

空間形成という観点から、総合的に判断すれば、和歌山市の賑わいについては、都会の喧噪とは異なる賑わいであることが求められていること、また市街地中心部であっても、和歌山の豊かな自然を想起させ、また徒歩やサイクリングによってその自然を体感できるような、緑を活かした和歌山らしい空間が求められている。おそらく、こうした点は、若年層に限らず、中高年にとっても、また来訪者や観光客に限らず、市民にとっても、比較的受け入れ易いものであろう。

表 21 旅のなかでもっとも印象に残ったこと（自由記述）

1歩くことの楽しみ
いっぱい歩きました。いっぱい神社の階段を上り、参拝しました。ちよつと疲れたが海まで行く と海を聞いてたりしてすぐ疲れたが全部飛んだ、多くの人と同じように海が好きだった。(F) 階段は車で特定の場所しか訪れないので、電車を使ったり、自分の足で街を歩くことで今までは 気づかなかった事に気がついた。 歩いて色々な所に行けたのでよかった。和歌山にもお城があったのを知らなかったので行けてよ かった。
2サイクリングの楽しみ
サイクリングが本当に気持ち良かった。また、気候も文句なしだったので、景色が大変きれいだ った。 サイクリングをしたこと！気候も2月の朝によかったのでもちよかつた。 サイクリング（1時間くらい）で海沿いを通ったことが楽しかった。夏ならなおさらよと思っ た。
3公共交通機関の不便さ
公共交通機関を用いた観光は難しいなと思いました。車でのほうが、いいと思います。 駅のバス停がわからなかったこと。(F) 公共交通機関があまり充実していない。車の方がいいのかな。 交通機関や道の状況が分からなかったため、モデルルートがあった方がいり。友人と駅をしたか ら楽しかったが、インパクト不足 交通が不便でした。いいものたくさんあるのに・・・もったいないと感じました。 バスマップなどがあれば・・・。(その場所しかいらないという、デメリットも発生するかも) 海南駅→マリーナ無料バスがあること知っていたら使ったのに。(F)
4人とのふれあい（一部抜粋）
和歌山の人とはとても優しい。道を笑顔で教えてくれた。(F) 観光スポットの印象より、「人」の印象が残ります。
5和歌山城の印象と歴史的資源に対する興味
動物園が思ったより広くて色々な動物がみれて楽しかった。近距離で見れるものが多かったの で、より楽しめた。 和歌山城が思ったよりも観光として見学する所が多かったため、時間をかけてまわることができ て良かった。天守閣の景色がとても良かった。 たくさん和歌山で観光できる場所があるなと思った。歴史物の見学などはとても興味深かった。 歴史物→和歌山城。歴史が好きなので。 和歌山城。ビルの中で古いものがあった。看板は漢字ばかり。庭の中の景色が美しかった。階段 が整備されず、自然のまま良かった。ミズ表から登り、裏へ降りた。(F) 和歌山城で鯉を見たこと。(F) あと、一緒に行った友達が歴史に詳しくて、和歌山城を楽しませました。 市内に緑も多く伝統的な観光地が多く。きれいな町だと思う。神社、寺、家、ビルなど伝統的な 建物が多く良い印象。(F)
6黒潮市場・マリーナシティに対する印象（一部抜粋）
黒潮市場。小さかったけど、和歌山の特徴を生かしていると思う。でもすごく印象のこのところとい うところではなかった。他の場所はいりない。時間的に余裕がなかったせいかもしれない。(F) 思ったよりマリーナシティがとてもきれいで楽しかった。マリーナシティ周辺の景色とかヨット などが風情的だった。
7貴志川郷に対する印象（一部抜粋）
観光スポット（日本文化的なところ）は外国人が多く、貴志川郷はファミリーが多かった。
8土産物に対する印象（一部抜粋）
びっくりするほど土産とかが当地グッズが少なかった。和歌山市駅が思ったより駅が整備され ていた。お土産店のマップが良かった。
9和歌山市全体に対する印象
自分が思ったよりも、和歌山には数多くの観光スポットがあって、観光ポテンシャルの高い地 域であることです。(F) 1つ1つの観光資源は魅力的だった。 和歌山は全体的に空気がのんびりしている。大阪はゴチャゴチャ。そこから来るからのんびりし ているのが良く、楽しい。人も車も多くない。毎日は無難かな。
10その他（一部抜粋）
温泉が良かった。 海で遊んだこと。(F)

(F)は留学生の意見

7. 観光地としてのイメージの変化

和歌山市に来る前と来た後で、和歌山市の観光地としてのイメージについて尋ねた。来訪前には、あまり良いイメージを持っていなかったと回答した人がもっとも多かった（表 22）。留学生では、ほとんどイメージをもっていなかったという回答がもっとも多かった。

来訪後の和歌山市のイメージは、留学生、日本人学生ともにおおむね良好である。来訪前にほとんどイメージをもってい

なかった人は、来訪後良いイメージもしくはまあ良いイメージを持ったと回答しており、あまり良いイメージをもっていなかった人も、来訪後はおおむね良いイメージもしくはまあ良いイメージへと改善されている。

ちなみに、来訪経験と来訪前のイメージをクロスしてみると、何度か和歌山市に来訪している被験者は良いイメージを持っており、逆に来訪経験がない被験者があまり良いイメージを持っていないことがわかる。

表 22 来訪前後の和歌山市の観光地としてのイメージ

来前	来た後			合計
	良いイメージ だった	まあ良いイ メージだった	あまり良いイメ ージではなかった	
良いイメージを持っていた	6	1	0	7
まあ良いイメージを持っていた	3	1	2	6
あまり良いイメージを持っていなかった	3	7	1	11
ほとんどイメージを持っていなかった	2	5	0	7
合計	14	14	3	31

8. 観光振興のために必要なこと

今後和歌山市に若い人がもっと観光で訪れるようになるために、必要だと思うことについて尋ねたところ、もっとも多い回答は、まちなかに活気があること（41.9%）であり、次いで今ある観光資源をもっと魅力的にみせること（32.3%）であった（表 23）。言い換えれば、観光資源そのものは十分に楽しめるが、それにさらに工夫を加えれば、より魅力的な資源となって多くの人をひきつけることができ、その観光資源をとりまくまちなかが賑わいある空間として再生すれば、和歌山市に観光に来たいと思う若年層を増やすことができるということである。

他の設問では、交通の不便さに不満が集中していたが、ここでも、市内の移動がもっとわかりやすく便利になることが29.0%と、高い割合を示した。この他、もっと情報発信・PRをすることが同様に29.0%と高い割合であった。

回答全般から言えることは、観光客のための細やかな配慮（たとえば観光客のためのサインや休憩所等の設置、お土産物やアトラクション等の充実）を要求しているというよりも、それ以前の段階として、まちがまちとして機能していること（まちなかの活気や移動手段）を必要だと認識しているということである。

表 23 和歌山市に若い人がもっと観光で訪れるようになるために必要なこと（3つまで）

	留学生	日本人	合計	合計(%)
もっと商業施設があること	2	2	4	12.9%
体験できるアトラクションがあること	2	3	5	16.1%
ご当地グルメがもっとあること	0	3	3	9.7%
地元産の食材を使ったカフェやレストランがあること	0	4	4	12.9%
まちなかにもっと活気があること	1	12	13	41.9%
まちなかが魅力的であること	0	7	7	22.6%
ベンチなど観光客が休憩できる場所があること	0	0	0	0.0%
参加してみたいイベントがあること	4	0	4	12.9%
今ある観光資源をもっと魅力的にみせること	2	8	10	32.3%
もっと情報発信・PRをすること	6	3	9	29.0%
地図やサイン、観光案内を工夫すること	1	4	5	16.1%
お土産物を充実させること	1	4	5	16.1%
市内の移動がもっと分かりやすく便利になること	4	5	9	29.0%
市内の移動が安価であること	3	2	5	16.1%
とくにない	0	0	0	0.0%
その他	1	3	4	12.9%

9. 小括

調査全体を通して、和歌山市の観光資源そのものに対して、被験者は非常に好意的であり、一定の関心を示している。和歌山城の歴史にしても、自然環境にしても、評価は高かった。

また、まちなかという空間のなかで、たとえば和歌山城という歴史的な観光資源がどのように見えるかということが意識されており、被験者の視線は明らかな観光資源そのものに向けられているだけでなく、それを取り囲んでいる一般的なまちなかの空間にも意識的に向けられていることがわかる。緑の豊かさに対する評価もこうした視線を裏付けるものと言えよう。

他方、まちなか空間を構成する重要なファクターとも言える、まちの賑わいという点については、概して否定的な意見が多かった。店舗の少なさや人の少なさが、空間としての魅力を損ねていることは否めない。このことは逆に、まちなか空間を歩いて楽しめないことが、中心市街地の賑わいを回復できないひとつの要因であるとも言える。加えて、市内の移動／公共交通に対する不満も高く、中心部は来訪者の移動を円滑にする機能を備えていないため、観光をするうえで多くの不便や不都合を生み出している。移動つまり公共交通の利便性の向上は、観光空間としてだけでなく、日常生活の空間としても必要不可欠な事項であり、まちなか空間の魅力や賑わいを高めるうえでも、抜本的な改善が求められる。

IV. まとめ

最後に、和歌山市中心部の観光空間としてのあり方について、いくつかの指摘をして、結語としたい。

第1に、来訪者が和歌山市に対して抱くプラスのイメージを活かした空間づくりの重要性である。意識調査や日帰り旅行モニター調査の結果から、自然の豊かさや和歌山城に象徴される歴史の蓄積を一定評価していることがうかがえる。格調ある歴史を有する和歌山市ではあるが、すでに少なくない資源が震災やその後の開発で破壊されてきた。とはいえ、歴史そのものは消すことができないものであり、残されたわずかな資源や人びとの暮らしのなかの知恵や工夫を活かし、まちに「和歌山らしさ」を再構築することは不可能なことではない。さらには、中心部からの和歌浦や加太、マリーナシティといった海辺へのアクセスを強化することが、和歌山市の自然の豊かさというイメージを補強する可能性をもつものと考えられる。

第2に、被験者の関心の対象が、歴史や自然といった資源だけでなく、和歌山市というまちの今ともいべき、人びとの暮らしやそのなかで生まれる人と人とのつながりや空間のしつらえに向けられているように読み取れることである。ゆえに、移動の不便さを実感しつつも、観光地としてのあり方で問題だと指摘するのは、「まちの活気のなさ」であり、「観光資源をもっと魅力的にみせること」なのである。

若年層に限らず、観光客が今観光対象として求めているのは、点としてのアトラクションだけではなく、「生活観光」と呼

ばれるような、人びとの暮らし方を含む面としてのまち全体である。和歌山市民のいきいきとした暮らしや生業、そしてその蓄積である歴史や文化を磨き上げ、その魅力を発信していくことこそ、観光振興の原点である。

第3に、今回の調査のなかで、和歌山市の重要な観光資源であると感じかされたものが、海¹²と城とサイクリング（健康志向+環境共生型アクティビティ）である。和歌山市の、自然豊かなイメージをよりグレードアップさせるうえでも、海とサイクリングは重要なファクターとなるであろう。蛇足であるが、健康志向+環境共生型アクティビティには、ジョギングも含めて考えてもよいだろう。和歌山城周辺では夕方から夜間に多くのジョギガーをみかける。近年では旅先でジョギングをする人も増えている。

サイクリングやジョギングには、自然景観だけでなく、沿道景観を含む街なか景観の魅力アップと安全確保のための道路整備等が必要となろう。そのためには、豊かな生活空間の創造とそれに積極的にかかわる市民の協力が不可欠であり、行政にはそれを生み出すための部局横断的な戦略と対応が求められる。

（謝辞）和歌山市観光課の受託研究の一部である。受託研究で行った調査の結果は報告書「和歌山市における観光資源発掘調査報告」としてとりまとめている。調査対象との調整にご協力下さった方々、調査にご協力下さった学生さん、極寒のなか調査を担った山田ゼミ・堀田ゼミ・永瀬ゼミの院生、3回生の皆さんにお礼を申し上げます。

【注】

- 1 じゃらんリサーチセンターはインターネットでの回答方法を採用している。この意識調査はじゃらんリサーチセンターの調査結果との比較を意図して、同じ質問を利用したが、本稿では、意識調査の結果については、日帰り旅行モニター調査の対象となる「和歌山市在住ではない18～25才までの学生」の意識傾向を把握するために用いている。
- 2 和歌山市に居住するもしくは実家がある学生は調査対象から除外した。
- 3 内訳は授業A受講生約300名、授業B受講生約25名、被験者31名（内7名は授業B受講生に含まれる）。ただし配布を依頼したため正確な配布枚数が確認できなかった。
- 4 上記注3を踏まえ、回収率は算出しない。
- 5 本稿では、写真およびGPSデータの分析については割愛している。
- 6 天気および気温のデータは、TENKI.JPのHPデータによる。
- 7 日帰り旅行モニター調査の被験者数が31名であり、意識調査回答者全体（もしくは被験者以外）との比較が意味をなさないため。
- 8 修学旅行、林間学校など学校行事やビジネスでの旅行は除いて、回答を求めている。
- 9 和歌山市に旅行で行ったことがない回答者のうち、あまり行きたいと思わない（17名）、まったく行きたいとは思わない（4名）、合計21名が、和歌山市に行きたいと思わない理由として、複数

回答で「行きたいと思う観光スポットがない」(7件)「観光地というイメージがない」(7件)であった。

- 10 日本人学生 22 名中 21 名は日本人同士で行動し、留学生 9 名のうち 8 名は留学生同士、1 名が日本人と行動している。
- 11 本人のインタビュー証言に基づく。
- 12 海水浴ではない海の楽しみ方。

受理日 2013 年 12 月 5 日